

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 50 No. 3
June 2025**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い	31
2025 年度年会費納入のお願い	32
第 52 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 6 報）	33
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ	37
第 28 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	39
Society of Toxicology（SOT）学術年会派遣報告① —Continuing Education Courses に参加して—	40
Society of Toxicology（SOT）学術年会派遣報告② —Continuing Education Courses に参加して—	41
第 51 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	42

オピニオン

毒性学ニュース「オピニオン」に掲載された高岡氏へ提言	43
----------------------------------	----

その他のお知らせ

第 65 回日本先天異常学会学術集会案内	44
----------------------------	----

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第 21 条に定められております「定時社員総会」を学術年会期間中に開催いたします。
本学会は一般社団法人ですので、関連法令に基づき重要な案件は社員総会で決定する必要があります。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。

社員総会の決議には、定款第 24 条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の過半数を有する社員の出席が必要です。社員総会出席者数（委任状含む）が過半数に満たない場合は、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会にご欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状のご提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

2025 年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会
日 時：2025 年 7 月 3 日（木） 15 時 00 分～16 時 30 分（予定）
場 所：第 52 回日本毒性学会学術年会 第 1 会場（沖縄コンベンションセンター 劇場棟 劇場）
議 案：1. 2024 年度事業報告および収支決算
2. 2025 年度事業計画および収支予算
3. その他

以上

2025 年 6 月 1 日
一般社団法人日本毒性学会
理事長 広瀬 明彦

2025 年度年会費の納入のお願い

一般社団法人 日本毒性学会
社員（一般会員及び学生会員） 各位

日本毒性学会定款第 11 条（会費）に基づき、2025 年度の会費の納入を受け付けております。会費は日本毒性学会の運営・活動の原資となりますので、年会費の納入をお願いいたします。

2025 年度 一般社団法人日本毒性学会 年会費
一般会員：9,000 円
評議員：12,000 円
学生会員：3,000 円

評議員および一般・学生会員は会員専用マイページの会費納入状況のページより年会費のクレジットカード決済が可能となっております。2024 年度以前の未払いの年会費についても、同様の手続きでクレジットカード決済が可能です。事務経費節減のため、できるだけクレジットカード決済を用いた年会費の納入をお願いいたします。

ログイン URL：<https://area3l.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>

郵便振込による会費納入をご希望の場合は、振込先口座情報をマイページの会費納入状況画面にてご案内いたしております。

5 月末日までにクレジットカードか郵便振込による会費納入が確認できなかった会員宛に、6 月以降、郵便振込用紙を順次郵送します。

なお、定款第 14 条に基づき、会費を 2 年度分以上延滞し、かつ催告に応じない場合には自動的に会員資格の喪失となりますので、ご注意ください。

異動や転居等で登録情報に変更が生じている場合は、マイページより、登録情報の変更手続きをお忘れなきようお願いいたします。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本毒性学会
理事長 広瀬 明彦
総務委員長 藤原 泰之

第 52 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)

(年会ホームページ: <https://www.jsot2025.jp/>)

1. 会 期

2025 年 7 月 2 日 (水) ~ 4 日 (金)

山本 千夏 (東邦大学)

吉成 浩一 (静岡県立大学)

2. 会 場

沖縄コンベンションセンター

〒 901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4 丁目 3-1

URL: <https://www.oki-conven.jp/>

3. テーマ

“Diversity in Toxicological Sciences for
Sustainable Environment and Human Health”

4. 年会長

黄 基旭 (東北医科薬科大学)

副年会長

平良 淳誠 (国立沖縄工業高等専門学校)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

赤井 翔 (中外製薬 (株))

朝倉 省二 (エーザイ (株))

安西 尚彦 (千葉大学)

石塚真由美 (北海道大学)

上原 孝 (岡山大学)

小椋 康光 (千葉大学)

北嶋 聡 (医薬品食品衛生研究所)

齋藤 文代 (岡山理科大学)

佐藤 雅彦 (愛知学院大学)

篠澤 忠紘 (武田薬品工業 (株))

鈴木 睦 (協和キリン (株))

高橋 祐次 (医薬品食品衛生研究所)

武田 一貴 (北里大学)

武田 志乃 (量子科学技術研究開発機構)

角崎 英志 ((株) 新日本科学)

中島 美紀 (金沢大学)

中西 剛 (岐阜薬科大学)

中西 豊 (アクセリード (株))

奈良岡 準 (アステラス製薬 (株))

長谷川 潤 (神戸薬科大学)

原 俊太郎 (昭和医科大学)

広瀬 明彦 ((一財) 化学物質評価研究機構)

福島 民雄 (塩野義製薬 (株))

藤代 瞳 (徳島文理大学)

藤本 和則 (第一三共 (株))

松沢 厚 (東北大学)

美谷島克宏 (東京農業大学)

宮脇 出 (住友ファーマ (株))

6. 特別企画 (敬称略)

1) 第 22 回市民公開セミナー

テーマ: 知って安心! 日常生活に潜む化学物質とその健康影響

日 時: 2025 年 7 月 5 日 (土) 10:00 ~ 11:30

会 場: 沖縄タイムスビル 3F 「タイムスホール」

(1) 「食品に含まれるカドミウムによる健康影響」

永沼 章 (東北大学 名誉教授)

(2) 「暮らしの中の化学物質」

香川 (田中) 聡子 (横浜薬科大学 教授)

2) 特別講演

「Functional role of pyruvate kinase M2 in diabetic kidney disease」

Hyung Sik Kim (Division of Toxicology, School of Pharmacy, Sungkyunkwan University, Korea)

3) 教育講演

(1) 「Navigating the nonclinical pathway to clinical trials for AAV therapeutics」

Jessica L Lynch (Preclinical Sciences and Translational Safety, Johnson and Johnson)

(2) 「東北メディカル・メガバンク計画と個別化ヘルスケアへの挑戦」

山本 雅之 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構)

4) Invited Lecture

Invited Lectures by Presidents in ASIATOX

5) シンポジウム

(1) リアルワールドデータを活用した革新的な安全性評価

(2) KSOT-JSOT Joint symposium: Breakthrough led by advanced *in vitro* models and its future

(3) 甲状腺機能低下を伴う化学物質の毒性をどう評価するか?

(4) 学術小委員会: キャリア形成支援シンポジウム: 博士号取得のススメ

- (5) 医薬品開発における WoE 評価を毒性学的に考える
 - (6) フォワード / リバーストランスレーショナルリサーチによる医薬品の安全性研究の実践～製薬各社における取り組みの事例～
 - (7) 薬物動態を基軸として医薬品毒性を予測 / 評価する技術と基盤研究 ～肝、腎、消化管～
 - (8) 医薬品毒性機序研究部会シンポジウム：医薬品毒性の機序を解き明かすモデル動物たち
 - (9) 日本内分泌攪乱物質学会合同シンポジウム 1：内分泌攪乱作用の評価試験法の多様性と共通性
 - (10) 日本内分泌攪乱物質学会合同シンポジウム 2：子どもの毒性学－化学物質曝露による子供の高次脳機能への有害影響の認知の現状
 - (11) 3次元タンパク質構造情報を応用した薬剤安全性研究における安全性予測の最前線
 - (12) 亜熱帯生物がつくり出す魅力ある代謝活性物質とその利用
 - (13) 生体内における元素間相互作用 – 毒性と薬理への展開 –
 - (14) 生体金属部会シンポジウム：～メチル水銀毒性研究の新展開～
 - (15) 付加体科学部会シンポジウム：一環境化学物質はどのようにエピゲノムを制御しているのか？ –
 - (16) 医薬品開発における New Approach Methodologies(NAMs) の国内外の利用およびガイドライン化
 - (17) 医薬品開発ツールの利活用に向けた現状と課題
 - (18) 備える研究 ～放射線科学・健康科学の現場から～
 - (19) New mechanistic insights in aging
 - (20) 【日本中毒学会合同シンポジウム】化学物質の長期（亜急性・慢性）曝露影響における中毒学
 - (21) Involvement of cellular senescence in toxicity
 - (22) 【日本免疫毒性学会合同シンポジウム】医学を拓く免疫毒性研究の新展開＜職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化＞
 - (23) 最近承認された新薬における非臨床安全性パッケージとそのプロファイル
 - (24) SOT-JSOT Joint Symposium: Safety Evaluation of Complex Mixtures
 - (25) International symposium on the 3Rs in Asia-New Approach Methodologies(NAMs)-
 - (26) データベースを利用した毒性評価
 - (27) 生体はどのようにして多様な毒性ストレスを感知・応答するのか？ – その新たな仕組みと疾患 –
 - (28) Current Concerns and Future Prospects on Respiratory Toxicity
 - (29) New trends in cosmetic safety evaluation
 - (30) 【日本毒性病理学会共同シンポジウム】病理組織学的変化と各種毒性エンドポイントとの関連性
 - (31) 【日本安全性薬理研究会合同シンポジウム】安全性薬理ガイドラインに関する情報共有及びディスカッション
 - (32) 学術小委員会：次世代研究セミナー
 - (33) Systems Toxicology 開発への AI 導入の近未来 - 実験室、病棟と電腦 -
 - (34) Inhalation Toxicity of Particulate Matter - From the Mechanism of Toxicity to Toxicity Reduction -
 - (35) 質量分析技術が描く毒性学の未来
 - (36) 【日本薬理学会共催シンポジウム】レドックスの視点から読み解く薬と毒
 - (37) リードアクロスによる化学物質の安全性評価：課題と展望
 - (38) 今だから考える GLP
 - (39) 化学物質の毒性発現における脂質代謝応答
 - (40) 有機フッ素化合物 PFAS による環境汚染と人体影響
 - (41) リスク評価におけるベンチマークドース法の最新動向と課題
 - (42) 製薬企業における非臨床毒性評価への AI/ML 活用の実例
- 6) ワークショップ
- (1) 製薬業界における医薬品肝毒性予測の最前線
 - (2) 創薬モダリティの多様化と非臨床安全性評価～Part1 トキシコロジストの困りごと
 - (3) 創薬モダリティの多様化と非臨床安全性評価～Part2 レギュラトリ戦略を考える
 - (4) VCG に向けた臨床検査の現在
 - (5) 医 菌 獣医学教育におけるコアカリ時代の毒性学
 - (6) オルガノイド・スフェロイド培養系を用いた毒性評価の現状と展望

- (7) 若手企画ワークショップ1：毒性学研究者の生存戦略(キャリアパス)を考える
- (8) 若手企画ワークショップ2：毒性学×新技術：新しい毒性学を考える

7. 一般演題

- 1) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演の発表時間は8分、討論4分の12分です。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えでポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

◆ポスター発表 質疑・応答(コアタイム)

7月2日(水) 13:00～14:00

7月3日(木) 14:00～15:00

7月4日(金) 13:30～14:30

ポスターは縦180cm、横90cm以下のサイズで作成して下さい。

詳細は年会ホームページに掲載いたします。

2) 優秀研究発表賞応募演題

応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表(4分)と質疑応答(2分)を第1日目(7月2日(水))に行っていただきます。発表データ(PowerPoint)は、年会当日受付いたします。受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

3) 学生ポスター発表賞応募演題

審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(7月2日(水))に掲示し、受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

8. 参加登録および参加費

5月10日(土)より当日参加登録料金での申し込みを開始いたしました。

参加登録は引き続きオンラインにてご登録可能となっております。

当日参加申込締切日：

2025年7月4日(金)

1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と情報交換会費は「課税(消費税込)」となります。

※本年会ではインボイス制度に対応した領収証を発行いたします。

カテゴリー	当日参加登録
会員	20,000 円
学生会員	5,000 円
関連学会会員 ^{*1}	20,000 円
非会員	25,000 円
情報交換会費(一般)	15,000 円
情報交換会費(学生)	5,000 円

^{*1} 次の学会会員の方です。

(協賛学会 50音順)

共催：日本中毒学会

日本毒性病理学会

日本免疫毒性学会

日本薬理学会

米国 SOT (Society of Toxicology)

韓国毒性学会 (Korean Society of Toxicology)

協賛：日本安全性試験受託研究機関協議会

日本安全性薬理研究会

日本医薬品情報学会

日本衛生学会

日本環境毒性学会

日本環境変異原ゲノム学会

日本産業衛生学会

日本実験動物学会

日本獣医学会

日本食品衛生学会

日本食品化学学会

日本先天異常学会

日本動物実験代替法学会

日本内分泌攪乱物質学会(環境ホルモン学会)

日本薬学会

日本薬物動態学会

比較眼科学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード

※年会参加費には、下記が含まれます。

- ・年会参加証
- ・年会プログラム要旨集（冊子体 / 日本語もしくは英語）
- ・年会プログラム要旨集（PDF）
- ・年会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）
- ・参加証明証（会期後にメニューページよりダウンロード可能になる予定です）

※情報交換会費には、下記が含まれます。

- ・情報交換会参加証
- ・情報交換会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）

9. 情報交換会

以下の通り情報交換会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日程：2025年7月3日（木） 19:00～

会場：ラグナガーデンホテル 2F「羽衣」

URL：<https://www.laguna-garden.jp/>

10. シャトルバス

本年会では、参加者が無料で利用できるシャトルバスをモノレール「おもろまち駅」から会場まで運行いたします。

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

11. 託児室

本年会では、参加者が無料で利用できる託児室を設置いたします。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

12. キッズプログラム「こども自然教室」

本年会では、小学生以上のお子様に参加できるキッズプログラムを開催いたします。

詳細は年会ホームページをご覧ください。

13. 年会事務局

事務局長：田口 恵子（東京大学）

事務局：李 辰竜（愛知学院大学）

高橋 勉（東京薬科大学）

外山 喬士（東北大学）

E-mail: secretariat@jsot2025.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第28回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。

1. 日 時

2025年4月23日（水）～2026年3月31日（火）

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. 申 込

個人契約：終了しました。

団体契約：通年受付しております。

※学会ホームページ内、基礎教育講習会ページより、お申込みください。

4. 受講料

個人契約：一般会員：25,000円 学生会員：5,000円
非会員：30,000円 学生非会員：8,000円
認定トキシコロジスト：20,000円

団体契約：25,000円

※領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

※キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内内に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則として致いたしませんのでご了承下さい。

※申込者ご本人のみの受講となります。

※ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

5. その他

個人契約にてお申込みいただいた受講修了者には受講証明書を発行します。

【団体契約について】

同一企業あるいは団体に所属する複数名が同時に受講する場合にお申込み下さい。

本契約での動画視聴は、団体内での体系的な毒性学教育目的（新人／キャリア研修など）や大学等の教育機関での利用を想定しています。団体契約は代表者個人（毒性学会会員に限る）が申し込み、年間（年度）視聴権を得ます。代表者同席のもと複数名が同時視聴することを認めます（研修や講義のサポート教材としての利用を想定）。

※本契約で受講された場合は、受講証明書は発行されません。

認定トキシコロジスト試験 受験・更新資格のための評点として加算されませんので、ご注意ください。

「第26回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には6月中旬にダウンロード方法をご案内いたします。

1. 日 時

2025年7月1日（火）

13時00分～16時00分予定

2. 形式・場所

現地開催

於：沖縄県市町村自治会館 2F ホール
(沖縄県那覇市旭町 116-37)

3. プログラム (仮)

1) トピックス SOT2025

三ヶ島 史人先生 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構)
[AM04] Key Considerations of NAM Development for Global Regulatory Harmonization; Upon completion of the course, attendees will have a better understanding of how to bring a method from development to validation, build confidence, and standardize aspects of the approach on the path to harmonization.

栃谷 智秋先生 (住友ファーマ 株式会社)
[PM13] Seeing Ocular Pathology: Best Practices for Ophthalmic Endpoints in Ocular Toxicity Studies; This course will allow attendees interested in developing ocular therapeutics, from traditional to newer complex modalities, to understand and appreciate the necessary resources for conducting ocular toxicity studies for the development of an ocular pharmaceutical or medical device product.

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー： 「毒性学への応用！ヒト ES 細胞と iPS 細胞の最新動向」

演題・講師 (仮)

- ・ ES 細胞の標準化と最新知見アップデート：
川瀬栄八郎先生 (京都大学 医生物学研究所)
- ・ iPS 細胞の標準化と最新知見アップデート：
宮本憲優先生 (エーザイ株式会社)
- ・ ES/iPS 細胞の毒性学への応用：
曾根秀子先生 (横浜薬科大学)

4. 申込

2025 年 6 月 9 日 (月) まで
※期間を延長させていただきました

「第 28 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール (予定)

2025 年 11 月

2. 会場

未定

3. 受験料

30,000 円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2005 年、2010 年、2015 年、2020 年に認定トキシコロジストに認定された方となります。対象者には、3 月にメールにて、資格更新の意思を確認させていただきました。更新希望の旨をご回答いただいた方には、7 月頃に申請書一式を郵送いたします。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は 7 月上旬、締め切りは 8 月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018 年 3 月発刊の「第 3 版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2025 年 6 月頃にご案内いたします。

第 28 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

土屋 由美

認定試験小委員会委員長

福島 民雄

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の 10 日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

日本語・英語のいずれか言語での受験になります。英語受験を希望する場合は、申込フォームの英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. 日 時

2025 年 11 月予定

2. 会 場

未定

3. 出願期間

2025 年 7 月中旬～8 月中旬予定

4. 出願書類

- 1) 申込受付自動返信メール
- 2) 受験票確認票
- 3) 認定試験受験資格のための評点表の証明資料
- 4) 写真 2 枚（縦 3.5cm × 横 3cm）※6 ヶ月以内のもの
（受験者確認票の所定欄に貼付、1 枚予備）
- 5) 受験料払込票のコピー

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時に JSOT の会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの（書留、信書便等）でお送り下さい。

5. 受験料

30,000 円（下記の口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい）

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店（021）

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

（通信欄に会員番号を明記下さい）

※出願が受理されますと、受験料は認定試験を受験しなくても返還できませんので、注意ください。

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 E-mail: jsotq@jsot.jp

Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①

—Continuing Education Courseに参加して—

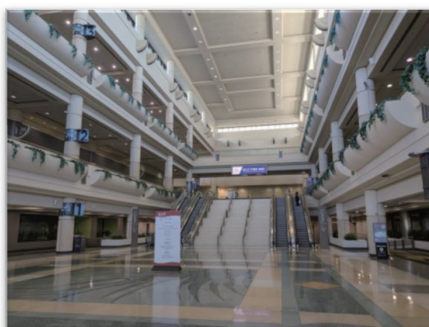
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 三ヶ島史人

2025年度の第64回SOT学術学会はフロリダ州オーランドにて3/16-20にかけて開催されました。今回、日本毒性学会学術教育委員会が企画するSOT教育コース派遣事業の一環として、指定セミナー”Key Considerations of NAM Development for Global Regulatory Harmonization”、自由セミナー”Utilizing New Approach Methodologies (NAMs) for Regulatory Assessment of Developmental Neurotoxicity: Progress and Prospects”に参加いたしました。

指定セミナーは新規評価手法（New approach methodologies: NAMs）の行政利用の国際協調に関するものでした。OECDガイドライン34の内容に沿った試験系のバリデーションに関する内容が中心で、試験系開発における重要な考慮事項の解説や、OECDガイドライン化プロセスの紹介がなされました。行政利用を見据えたNAMsの試験系開発過程に着目した講演は貴重であり、行政当局に所属する者として有意義な情報収集ができました。行政受け入れ可否判断の国際協調については一当局のみで解決できるものではなく、改めて大きな課題であると感じさせられました。自由セミナーは発達神経毒性を評価する具体的なNAMsの試験系に関するもので、指定セミナーと合わせてNAMsに関する理解を深めることができました。学会全体を通してNAMsに関する議論がメイントピックとなっており、今後動物を用いないNAMsによる毒性評価が増えてくと改めて実感させられました。

オーランドはウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートやユニバーサル・オーランド・リゾートなどの複数のテーマパークがある世界有数の観光・保養都市として知られ、多くの観光客で賑わう街でした。会場となったOrange County Convention Center West Concourse はとても広く、会場内の移動にそれなりの時間を要するほどでした。250社を超える企業展示や2000件以上のポスター発表の会場となったToxExpoは活気があふれていました。残念なことに、2025年1月の米国大統領令の影響により、US FDAやUS EPA、NIHSなどの米国行政機関の職員が本学会に現地参加できない状況となりました。それでも予定されていたこれらの職員の講演は録画映像での対応となり、後日多くの講演内容が学会専用アプリで配信されることでこれらの職員も他の講演を聴講できるようになるなど、数年前のハイブリッド開催の経験から発展したテクノロジーを活かしたフォローがなされました。

今回このような貴重な機会をくださいました、日本毒性学会教育委員会の諸先生方、事務局の皆さまに改めてお礼申し上げます。



Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②

—Continuing Education Courseに参加して—

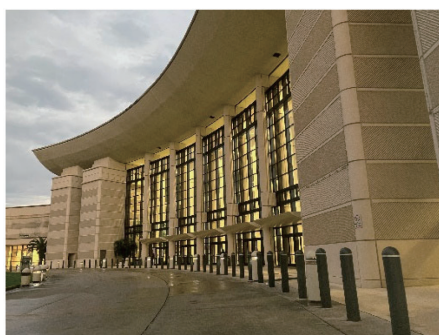
株式会社住友ファーマ 前臨床研究ユニット 梶谷 智秋

今回、日本毒性学会からの派遣として、2025 SOT Annual Meetingに参加し、教育コースを受講させていただきました。指定コースとして「Seeing Ocular Pathology: Best Practices for Ophthalmic Endpoints in Ocular Toxicity Studies」を、選択コースとして「Fit-for-Purpose Methods to Fulfill 21st-Century Chemical Risk Assessment」を受講いたしました。

指定コースでは、遺伝子治療や細胞医薬など、様々なモダリティの医薬品が眼疾患を適応として開発される中で、動物種の選定、ERG や OCT といった各種の機能的・形態的評価項目や病理評価項目の選定・デザイン、及びこれらの結果に基づく統合的評価など、非臨床でどのように安全性を評価するかについて解説されました。私自身はこれまで主に病理評価の面から、全身投与や眼内に投与される医薬品の眼への影響の評価に携わってきましたが、今回評価の全体像や、各評価項目の位置づけについて、理解を深めることができました。選択コースでは、化学物質の曝露評価やリスク特徴づけにおけるリードアクロスや PBK モデリングなどの NAMs の利用について解説されました。

本年会では、FDA や EPA などの政府機関の方々が急遽欠席となるなど混乱もあったようですが、それでもセッション講演や、ポスター発表、企業展示は数多く、議論も活発になされており、各分野を代表される方々とも質疑を通じて交流できる、よい機会となりました。なお、昨今の為替状況もあり、気になるのが参加費用でしたが、SOT 会員・非会員で大きく異なります。参加に合わせて入会を想定される場合は、12 月末までの申請が必要となるようですので、予めご用意されたほうがよろしいかと思います。

最後に、このような貴重な機会をいただきました日本毒性学会教育委員会の諸先生方、及び事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。今回の学びも基に、今後の日本毒性学会の発展に少しでも貢献できるよう、努力いたします。



会場のオレンジカウンティ・コンベンションセンターと会場前の光景。開催地のフロリダ州オーランドは、亜熱帯ということで、3月でも非常に温暖、湿潤で、散策は会場周辺に留まりました。

第51 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 51 回日本毒性学会学術年会の要旨集（CD-R 版のみ）を 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円

通信欄記入事項：①住所②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 51 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsotq@jsot.jp

オピニオン

毒性学ニュース「オピニオン」に掲載された高岡氏へ提言

衛藤 光明

元国立水俣病総合研究センター所長

- 1) まず、故生田房弘先生の水俣病剖検例に関する高岡氏の主張に対して述べます。故生田房弘先生は、新潟大学脳研研究所神経病理学教室での水俣病剖検例について、環境省の水俣病研究班の班会議では報告されていますが、学術誌にはされていません。そのため、新潟大学脳研研究所神経病理学教室の諸先生と共同で新潟県の剖検例を学術誌に報告しました(1)。熊本県の剖検例と比較して、軽症例が多く、病理学的所見も故武内忠男先生の熊本での剖検所見と全く一致しており、グリア細胞の増加を伴う神経細胞の間引き脱落が認められています。
- 2) 高岡氏は、水俣病の診断は、臨床症状が大事であり、剖検診断は最終診断でないとの見解です。1988年に私達がNeuropathol誌に報告した剖検例(2)は、熊本県の公害被害者認定審査会では水俣病と認定されましたが、剖検では水俣病の病理学的所見は認められず、水俣病と病理診断することはできませんでした。病理医は、臨床医の診断の正否を明らかにする責任があります。高岡氏は四肢末端の感覚障害が認められたと記載していますが、中枢神経系病変を欠く19症例(3)も水俣病であると主張されています。高岡氏は、神経内科専門医だそうですが、これらの主張には納得できません。毒性学ニュースの小生のオピニオンに記してありますように、これまで400例以上の剖検例の所見から、水俣病では大脳皮質の選択的病変、小脳皮質病変、さらに脊髄末梢知覚神経優位の傷害という、一定の傷害パターンが共通して認められており、これらによって、水俣病の病理診断がなされているのです。
- 3) 高岡氏は、大脳病変による症状の重症度が変動する事があり、それはメチル水銀で傷害された大脳皮質の神経細胞の修復によるものであると主張されています。氏の説に従えば、修復と傷害がくり返されないと症状の変動が見られない事になります。メチル水銀汚染がない現在で、新たにメチル水銀による傷害が生じるとは考えられません。大脳皮質の神経細胞が修復されることは、臨床的にも病理学的にも証明されておりません。高岡氏の言説は根拠の無い推論です。

- (1) 衛藤光明・高橋 均・柿田明美・徳永英博・安武 章・中野篤浩・澤田倍美・金城芳秀(2007):新潟水俣病関係30剖検例の病理学的・生化学的研究。日本衛生学雑誌、62、70-88。
- (2) 衛藤光明・岡村良一(1988):有機水銀中毒症の病理所見の無い臨床的水俣病の2剖検例。Neuropathol. 8、289-300。
- (3) 岡嶋 透・衛藤光明(1999):「水俣病の感覚障害に関する研究について」津田論文および中島論文に対する反論。精神神経学雑誌、101、509-513。

その他のお知らせ

第 65 回日本先天異常学会学術集会 (ご案内)

この度、第 65 回日本先天異常学会学術集会 (<https://jts65.jp/>) を令和 7 年 7 月 25 日 (金) ~ 27 日 (日) に三重県伊勢市にて開催させて頂くこととなりました。

先天異常に関する課題が非常に広範であること、科学技術の発展に伴い学術分野の境界を超えたつながりが加速していることを鑑み、本学術集会のテーマを「先天異常学研究所のさらなる連携を目指して」といたしました。また、本学術集会は第 4 回ダウン症基礎研究会と同時開催いたします。大会二日目の夕方から、日本先天異常学会とダウン症基礎研究会の合同でシンポジウムとポスターセッション、情報交換会を開催いたします。

本学術集会を通して新たな連携が生まれ、先天異常の課題解決に向けた学際的な取り組みがさらに加速することを願い、学術集会事務局ならびに関係者一同で鋭意準備を進めております。

美しく国みえの地で、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 65 回日本先天異常学会学術集会 (<https://jts65.jp/>)

大会長：西村 有平

(三重大学大学院医学系研究科統合薬理学 教授)

開催日時：令和 7 年 7 月 25 日 (金) ~ 27 日 (日)

開催場所：シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢

(〒 516-0037 三重県伊勢市岩渕 1 丁目 13-15)

演題登録：<https://jts65.jp/endai.html>

締め切り：令和 7 年 5 月 31 日 (土) まで ※一般演題
の発表形式は、すべてポスター発表

参加登録：<https://jts65.jp/sanka.html>

事前参加登録締め切り：令和 7 年 7 月 9 日 (水) まで

大会事務局：三重大学大学院医学系研究科統合薬理学

〒 514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

E-mail：pharmaco@med.mie-u.ac.jp

TEL：059-231-5411 FAX:059-232-1765

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ（http://www.jsot.jp/about/rule_list.html）に掲載されています。

・定款

一般社団法人日本毒性学会 定款

・要綱・規程・細則・指針

研究倫理と動物実験

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針

入会、賛助会員、名誉・功労会員

一般社団法人日本毒性学会 入会規程

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程

評議員、理事・監事、常置委員会、部会

一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

学会刊行学術誌

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程

表彰制度

一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

認定トキシコロジスト制度

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則

教育研修支援

一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程

その他

一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針



環境、生命、人材 を大切にする会社であり続ける



1957年創業

日本初の非臨床試験受託機関



霊長類の安全性研究で世界最大級の施設

自家繁殖機能を拡大、安定供給を実現



国内No.1の試験実績で
世界水準の技術力を世に提供



株式会社新日本科学

Web: <https://www.snbl.co.jp/> Email: info@snbl.com



SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc : ddY
Slc : ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NcrSlc・C57BL/6JmsSlc(J由来)
C3H/HeSlc
C3H/HeNSlc
C3H/HeYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129x1/SvJmsSlc

●B10コンジェニック

C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
(NZW×B6SB)F1/Slc受注生産
※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WBB6F1/KiI-KiI^{+/+}/Slc(肥満細胞欠損貧血・*KiI^{+/+}*/Slc^{+/+})
NC/Nga(皮膚炎)

★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫・SAM系対照動物)
★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
★ SAMP10/TaldrSlc(脳萎縮・うつ様行動)
★ SAMP10-ΔSgI2(SG12変異による腎性糖尿・脳萎縮に伴う学習記憶障害・うつ様行動)
AKITA/Slc
C57BL/6HamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病・*Lepr^{ob}*)
HIGA/NScSlc(1gA腎症)
B6.KOR/StmSlc-*ApoE^{+/+}*(アポE欠損高脂血症・*ApoE^{+/+}*)
C.KOR/StmSlc-*ApoE^{+/+}*(アポE欠損高脂血症・*ApoE^{+/+}*)

ラット

●アウトブリード

Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST

●インブリード

F344/NSlc
BN/NSlc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/NSlc(薬物誘導性関節炎)

●ヌードラット

Slc : Long-Evans-*rrnu/rrnu*

●疾患モデル

★ SHR/Izm(高血圧)
★ SHRSP/Izm(脳卒中)
★ WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)
★ SHRSP5/Dmcr(NASHモデル【HFC飼料給餌】)
★ SHRSP/Ezo(AD/HD)
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満・*Lepr^{ob}*)
HWY/Slc(ヘアレスラット)

モルモット

●アウトブリード

Slc : Hartley

ウサギ

●アウトブリード

Slc : JW/CSK
Slc : NZW

ハムスター

●アウトブリード

Slc : Syrian

●疾患モデル

J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

●インブリードラット

F344/NSlc(GF)

●インブリードマウス(三協ラボサービス株)

Tsl : C57BL/6Ncr

遺伝子改変動物

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpr delta*)
BALB/c *Rag-2^{-/-}Jak3^{-/-}*(高度免疫不全)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)
F344/NSlc-Tg(*gpr delta*)
★ Slc:SD-Tg(SOD1H46R-4)

●疾患モデル

★ APPOSK-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{osk})](オリゴマ病理・老人変形成なし)
★ APPWT-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{wt})](APP^{osk}の対照動物)
★ Tau609-Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](タウ病理)
★ Tau784-Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](タウ病理)
★ Tau264-Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)](Tau609, Tau784の対照動物)
ニッケイインマウス
★ OSK-KJ[C57BL/6-Tg(OSK-KJ)](マウスAβ産生)
(特許第6323876号)

(株)星野試験動物飼育所

●アウトブリードマウス

Hos : HR-1(ヘアレス)

●ハイブリッドマウス

Hos : HRM2(メラニン保有)

●アウトブリードラット

Hos : OLETF(2型糖尿病)
Hos : LETO(OLETFの対照動物)
Hos : ZFDM-*Lepr^{ob/ob}*(2型糖尿病)

(一財)動物繁殖研究所

●インブリードマウス

IVCS(4日性周期)
C57BLKS/Jlar-*Lepr^{ob}*/4-*Lepr^{ob}*(肥満2型糖尿病)
TSOD(肥満2型糖尿病)

●アウトブリードラット

lar : Wistar-Imamichi
lar : Long-Evans

エンヴィーゴ(旧ハランOEM生物動物)

●アウトブリードラット

★ RecHan® : WIST

●インブリードマウス

★ CBA/CaOlaHsd

●免疫不全モデルマウス

★ C.B-17/ICrHsd-*Prkdc^{scid}*

その他(conventional動物)

●ミニプタ

☆(一財)日生研・NPO法人医用ミニプタ研究所)

●マイクロミニビッグ

☆国内繁殖生産(富士マイクラ(株))

●医学用ペビーブタ(SPF)SHIZUOKA EXPIG

☆静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター

●ビーグル犬

☆国内繁殖生産(一財)動物繁殖研究所)

●フェレット

自家繁殖生産(中伊豆支所)

★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



SLC

日本エス エル シー株式会社

〒431-1103 静岡県浜松市中央区湖東町3371-8

TEL(053)486-3178代 FAX(053)486-3156

http://www.jslc.co.jp/

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155代

関西エリア (053)486-3157代

九州エリア (0942)41-1656代

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員（就任年度順）]

今道 友則	池田 正之	加藤 隆一	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	小野寺 威	遠藤 仁
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	永沼 章

[功労会員（就任年度順）]

高仲 正	佐藤 温重	安田 峯生	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	唐木 英明
仮家 公夫	暮部 勝	野村 護	牧 栄二

三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春	小野寺博志
杉本 哲朗	西田 信之	中村 和市	姫野誠一郎
眞鍋 淳	安仁屋洋子	横井 毅	久田 茂
青木 豊彦	山田 久陽	天野 幸紀	菅野 純
佐藤 雅彦	苗代 一郎	中江 大	鰐渕 英機

[賛助会員（五十音順）]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共 (株)

●ゴールド

旭化成ファーマ (株)	あすか製薬 (株)
アステラス製薬 (株)	EA ファーマ (株)
エーザイ (株)	大塚製薬 (株)
小野薬品工業 (株)	花王 (株)
一般財団法人化学物質評価研究機構	科研製薬 (株)
杏林製薬 (株)	協和キリン (株)
興和 (株)	三栄源エフ・エフ・アイ (株)
サントリーホールディングス (株)	(株)三和化学研究所
塩野義製薬 (株)	(株)資生堂
シミックファーマサイエンス (株)	(株)新日本科学イナリサーチセンター
住友ファーマ (株)	住友化学 (株)
(一財) 生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業 (株)
千寿製薬 (株)	大正製薬 (株)
大鵬薬品工業 (株)	武田薬品工業 (株)
田辺三菱製薬 (株)	中外製薬 (株)
トーアエイヨー (株)	東レ (株)
株式会社トランスジェニック	(一社) 日本化学工業協会
日本香料工業会	日本新薬 (株)
ファイザー (株)	扶桑薬品工業 (株)
(株)ボソリサーチセンター	Meiji Seika ファルマ (株)
メディフォード (株)	持田製薬 (株)
(株)薬物安全性試験センター	ヤンセンファーマ株式会社
ライオン (株)	

[役員]（2024～2025年度）

理事長	広瀬 明彦	浅沼 幹人	阿部（富澤）香織
理事	朝倉 省二	鍛冶 利幸	北嶋 聡
	安西 尚彦	田口 恵子	土屋 由美
	鈴木 睦	南谷賢一郎	西村 泰光
	奈良岡 準	藤村 成剛	藤原 泰之
	黄 基旭	務台 衛	山本 千夏
	宮内 慎		
	吉成 浩一		
監事	杉山 篤	三浦 伸彦	

[学術年会長]

第51回	（2024年）	上原 孝
第52回	（2025年）	黄 基旭
第53回	（2026年）	宮脇 出
第54回	（2027年）	安西 尚彦

[委員会]（2024～2025年度） ●印：常置委員会 ◆印：小委員会、WG

● 理事長

広瀬 明彦

● 総務委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 連携小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 評議員選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 指針値検討小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 企画戦略小委員会	委員長	高橋 祐次
◆ ダイバーシティ推進 WG	WG 長	安西 尚彦
◆ 中高生向け企画小委員会	委員長	奈良岡 準

● 財務委員会

委員長 朝倉 省二

● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之

◆ FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆ Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆ 田邊賞選考小委員会	委員長	安彦 行人
◆ 毒性学ニュース編集委員会	委員長	古武弥一郎

● 教育委員会

委員長 土屋 由美
（小委員長・委員は10月末で交代）

◆ 生涯教育小委員会	委員長	美谷島克宏
◆ 基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
◆ トキシコロジー 4ed. 編集 WG	WG 長	鈴木 睦

● 学術広報委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 学会賞等選考小委員会	委員長	山添 康
◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞 選考小委員会	委員長	姫野誠一郎
◆ 特別賞等選考小委員会	委員長	菅野 純
◆ 技術賞選考小委員会	委員長	三島 雅之
◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	小椋 康光
◆ 学術小委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 広報小委員会・HP 担当	委員長	宮内 慎
	副委員長	黒岩 有一
◆ トピックス小委員会	委員長	北口 隆

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当	西村 泰光	
Executive Committee, Director	広瀬 明彦	
○ ASIATOX 担当	田口 恵子	
ASIATOX Councilor	田口 恵子	小椋 康光
	広瀬 明彦	熊谷 嘉人
	菅野 純	
○ SOT 担当	小野 竜一	西村 拓也
○ 日本学術会議担当	石塚真由美	
委員	菅野 純	石塚真由美
	小椋 康光	

部 会

○ 生体金属部会	部会長	浅沼 幹人
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原 孝

2025 年 6 月 1 日 印刷

2025 年 6 月 1 日 発行

発 行 人 広 瀬 明 彦
編 集 人 鍛 冶 利 幸
毒性学ニュース編集委員会委員長 古 武 弥一郎

発 行 所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒 100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
(株)毎日学術フォーラム
一般社団法人日本毒性学会事務局
TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555
E-mail : jsotq@jsot.jp
振替 00150-9-426831
<http://www.jsot.jp>

印 刷 所 株式会社 センキョウ

〒 983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目 4 - 2
TEL (022) 236-7161